プロジェクト概要

私たちは、雪とともに暮らす十日町の地域や人々の実際の生活や、雪が自然や社会にもたらす影響を知るために、2025 年 8 月から 2026 年 3 月まで、十日町市のさまざまな場所を訪れ、100 人を超える住民の方々にお話をうかがいました。加えて、文献資料や地域外の専門家の意見も伺いながら、雪の価値を「SNOW IMPACT MAP」（裏面掲載）としてまとめました。

本研究は、フィールドワークの経験や文化人類学の知見が豊富な株式会社日本総合研究所創発戦略センターと合同会社メッシュワークと共同で進めています。2025 年度の活動は以下の通りです。

1．十日町でのフィールドワーク・100 人インタビュー
2．東日本エリアの豪雪地域への視察
3．SNOW IMPACT MAP（β版）の制作

これまでに見出したことの例

十日町で見出した雪に関する価値や課題の例は以下の通りです。

■人知を超えた雪、社会を支える雪という存在

毎年やってくる雪は、十日町の人々にとって自らと切り離すことのできない大切な存在です。制御できず、放置もできない、人智を超えた存在。それが雪です。

■雪がもたらす恵みと向き合う課題

雪は、豊かな水やおいしい食べ物、地域ならではの文化など、たくさんの恵みをもたらしてくれますが、降りすぎれば災害となり、人々の生命と暮らしを脅かします。また、高齢化、産業構造や生活様式の変化で、雪への見方は多様化しています。

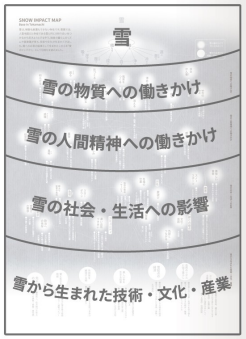
■「ままならないものと共に生きるウェルビーイング」

どれほど技術が進展しても、降ってくる雪を制御することは不可能です。そして、積もった雪は生活の邪魔となるため、放置できません。ままならない存在である雪に対し、十日町の人々は、粘り強い実践的態度で向き合ってきました。この態度は、現代人のウェルビーイングに対して示唆に富むものとなりえます。

■ SNOW IMPACT MAP(β版) の見方

雪が降り、積もり、溶ける循環によってを生み出される要素を右図のように整理しました。上部の物質への働きかけから、飛び石伝いにピンとくるものを、線でつなぐようご覧ください。

マップを通じて、雪との関わりを思い出し、雪の持つ価値を多面的にとらえることを狙いとしています。対話を通じて更新予定です。ご感想や活用の方法のご意見お待ちしています。



地域循環型ミライ研究所 とは

地域にある魅力や想いを見つけ、磨き、未来へつなぐ地域シンクタンクです。文化・食・自然といった社会的な価値を、多様な人たちとつなぎ、新たな経済的価値を生み出す価値循環のモデル「ローカル・ループ」(下図) の研究に取り組んでいます。これらの取り組みを通じ、ウェルビーイングを中心に据えた持続可能な地域社会の実現をめざしています。

HP はこちら

なぜ、雪の研究をするのか

東日本エリアには多雪地帯が多くあります。大雪が通信障害の原因になることもあり、雪はインフラを担う当社にとって　厄介な存在と見做されがちです。一方で、水を生み、土を豊かにし、独自の暮らしや文化を育むなど、雪があるからこそ地域が豊かになるという側面もあります。このように、多面的な存在である雪の研究をすることを通じて、私達は自然と向き合うための姿勢や態度、それを価値化するための構えを身に着けることができると考えています。

また、雪と共に生きる人々の考えを聞くことで、日々の暮らしの中にある実感や知恵に触れ、ローカル・ウェルビーイングについてのヒントを得られるのではないかと感じています。

より詳しいリサーチ情報は地域循環型ミライ研究所の note で発信しています。

「雪」に着目した地域活性化モデルの探究

■ お問い合わせ先

NTT 東日本株式会社 地域循環型ミライ研究所
電話番号　03-5359-6210
メールアドレス　mirai_honmu_ml@east.ntt.co.jp

地域循環型ミライ研究所

2025年　研究報告

雪と共に生きる人々の暮らしとウェルビーイング

十日町市民 100 人へのインタビュー

を通じて、雪と生きるとはどのようなことなのか、人々は雪にどのような感情を持ち、どのような価値や可能性を感じているのかを探りました。そこから見えてきたのは、雪国以外の人々にとっても参考になる態度やウェルビーイングの形です。